

報告

お金がないと 学校に行けないの？ 教育費告発フォーラム

5月31日(日)、新潟市で標記の「教育費告発フォーラム」が開かれました。

第1部では県内の高校生、大学生、保護者、支援組織からの発言がありました。ステージで勇氣ある発言をした二人の私立高校生のうちのAさんは「私立に入学して母に申し訳ない」「私立に通っていいのかと思つた」。Bさんは学費を半年間滞納して、学校から督促の電話がくると「泣くことしかできなかった」が、私学の公費助成をすすめる会の運動に参加して「私は悪くないと気づきました」と、厳しい環境のなかでも前向きに生きること気づいたと発言していました。

この春、私立大学に入学したCさんは今でも「母に迷惑をかけて」「進学の道を選んだことが良かったか迷うことがある」と心情を語っていました。同じくこの春、国公立大学に入学したDさんも授業料免除や奨学金を受給し「制度に感謝」しながらも、「働いた方

が良かったと思うこともある」と複雑な心境を語っていました。

シングル・マザーと言うお母さんは「将来が見えず、子どもにガマンさせているのではと思うと切ない」と、親の側から子どもへの思いを語っていました。また「平等に進路選択の出来る社会であつて欲しい」と訴えてもいました。

第2部では教員の側からの貧困問題が語られました。母子家庭等では親が昼夜働いているため、子どもの面倒が十分に見られず、低学年段階で学習習慣が身につかない実例が紹介されました。また高校を出て大学に入学した生徒が、奨学金を月12万円、4年間借りると500万円＋利息で700万円にもなり、毎月3万円づつ20年間で返済できるだろうかという問題提起もありました。最後に佐古田日本高等学校教職員組合副委員長のとめを兼ねた報告があり、文科大臣が高学費の問題で懇談会を設置し検討することを明言する等の新たな動きも報告されました。フォーラム実行委員会では、採択された高校授業料の無償化等を求める緊急アピールをもって、自治体への申し入れ活動を行うことになっています。

(大滝浩道)